

海 沿いにある雲仙市の小浜温泉街は散策にぴったり

の場所。湯けむりが立ちのぼる温泉街が並ぶメインストリートはもちろん、昭和の時代へタイムトリップしたような懐かしい町並みが続く裏通りも歩いて楽しい。お寺や神社などの歴史スポットもあり、また小さな路地りを行けば、古民家をリノベーションしたショップが現れるなど、さまざまな魅力がそこかしこに待ち受けている。

人気スポットの一つは、日本一長い足湯「ほっとふと105」。小浜温泉の源泉温度にちなんだ長さ一〇五メートルの足湯は、ちょうど良い湯加減で、歩き疲れた足をじんわりと温めてくれる。こちらのお楽しみはもう一つ。

日本一の熱さを誇る一〇五℃の蒸気を利用した蒸し料理。レンタルした竹カゴの中に卵など好みの食材を入れたら、蒸し釜の中へ。温泉の蒸気で蒸し上がった食材は、どれもほのかな甘みを感じる。春と冬はじゃがいも、秋は地元で「夕焼けガニ」と呼ばれるカニがおすすすめだ。

足湯に浸かっている時間を上手に活用したい。

温泉街に建つ斎藤茂吉の歌碑には、こんな歌が刻まれている。

ここにきて落日を見るを常とせり

海の落日も忘れざるべし

そう、小浜温泉では湯に浸かりながら夕景を楽しむというのが醍醐味！ 貸し切りの海上露天風呂「波の湯「茜」」は、満潮時には海面との差が二十センチほどになるため、まるで海に浮かんでいるかのような感覚になる。抜群の開放感を味わっていると、目の前の橘湾に夕日が沈み始める。空がオレンジ色に染まっていくと同時に、湯も自分の体も茜色に染まる時間は、小浜温泉ならではの至福のひとつだ。

小浜の楽しみは夜が本番。夕日に染まるお風呂を堪能したら、美味しい宴の時間である。

海上露天風呂 波の湯「茜」

美しい夕景に たたたた感動。

夕日に染まる

ワイン&美食 × 小浜温泉

海沿いに続く小浜の温泉街。

手軽に楽しめる定番の卵。蒸し釜なら8~10分ほどで食べ頃。

「貸し蒸し釜」は「ほっとふと105」に隣接。竹カゴのレンタルできる小店では、地元の人の笑顔に会える。

「小浜の湯めぐり札」は、1300円で温泉街にある宿湯と外湯をそれぞれ2軒ずつ利用できて、お得(有効期限1年)。

日本一長い足湯「ほっとふと105」。

小浜歴史資料館。1614年から代々、小浜温泉の発展の基礎を築いてきた本多湯太夫の邸宅跡で、小浜の歴史を伝える貴重な資料が展示されている。

